

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

オープンキャンパスに参加した際に、人間生活学科の説明を聞いて、インテリアや製図に興味を持ち、同志社女子大学を受験校に決めました。またオープンキャンパスで個別相談の時間があり、学生の方と話すことでより同志社女子大学に通いたいと思うようになりました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

6月まで部活動をしていたので、受験勉強をする時間はあまりありませんでした。引退するまでは学校での単語テスト、提出物をこなして、引退してからは、どの科目も基礎固めから始めました。高校には電車で通学していたので、電車に乗っている間は単語帳を見て、隙間時間を無駄なく使うようにしました。

〔夏休み〕

部活動を引退し、本格的に勉強を始めました。夏休みも学校で授業があったので昼間は学校へ行き、夜は塾で勉強しました。国語、英語はたくさん問題を解いて、読むスピードを上げました。日本史は模試ノートとして、間違えた問題を中心にノートを作成しました。模試ノートを作成することで、どの分野を苦手としているのかということが分かるため、効果的だと思います。

〔2学期～入試直前〕

入試直前は、同志社女子大学の過去問を中心に解きました。英語の点数がなかなか伸びませんでした。たくさん過去問を解くうちに当日の試験では英語を得点源にすることができたので、苦手な科目ほど対策をしっかりとすれば大丈夫だと思います。過去問は時間を計って、時間配分を考えながら解きました。入試1週間前からは過去問を解かず、単語を見返すなど、今までやっていた勉強の振り返りをしました。日本史は特に勉強したことがすぐに結果に出やすい科目なので最後は日本史を中心に勉強しました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は夏休みくらいまでの模試の結果はそれほど悪くはなかったのですが、2学期くらいから段々模試の成績が落ち始めました。勉強時間は夏休みまでよりも増えているはずなのに、周りのみんなも今までよりも勉強しているため、良い結果が出ませんでした。対処法としては、同志社女子大学の入試対策講座に行ったりしました。学校でも塾でも周りのみんなが頑張っている姿を見て、辛い時も頑張ることができました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験は日々の積み重ねだと思います。単語を暗記したりすることは地道な作業だと思いますが、その地道な作業こそが当日の試験で力を発揮します。当日自信を持って試験に臨めるように、頑張ってください。きっと今までが一番勉強に向き合えなければいけないと思いますが、受験を乗り越えれば成長することができます。応援しています。